

TIRES

SEALANTS & ADHESIVES

AIRCRAFT COMPONENT  
TECHNOLOGY

## プロフィール

当社は1917年に設立された世界有数のタイヤメーカーです。また、得意のゴム高分子技術をベースにホース、シーリング材・接着剤、工業資材、航空部品、ゴルフ用品など多彩なビジネスを展開しています。継続的な成長を目指し、タイヤ、その他の事業ともに国内および海外において確固たる地位を築くため、高機能商品の開発と生産・販売力の増強を積極的に進めています。

## 基本理念

心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献します

## 経営方針

技術の先端に挑戦し、新しい価値を創り出す  
独自の領域を切り拓き、事業の広がりを追求する  
人を大切にし、人を磨き、人が活躍する場をつくる  
社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする

## 行動指針

自らを鍛え、自己ベストに挑戦する  
たがいに信頼し合い、ぶつかり合い、高め合う  
外に向けて開かれた心を育てる

## 企業スローガン

すごいをさりげなく

## 目次

- |                               |                   |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. ステークホルダーの皆様へ               | 20. CSRへの取り組み     |
| 2. 決算ハイライト                    | 26. コーポレート・ガバナンス  |
| 4. 社長メッセージ                    | 28. 海外の主な子会社・関連会社 |
| 8. 中期経営計画「グランドデザイン100」        | 30. 日本の主な事業拠点     |
| 10. 特集1 タイヤ生産能力増強の推移と今後の計画    | 31. 取締役・監査役・執行役員  |
| 12. 特集2 海外売上高比率50%を目指すMB事業の施策 | 33. 財務セクション       |
| 14. Yokohama at a Glance      | 66. 投資家向け情報       |
| 15. 事業の概況-タイヤ事業               | 67. 株式情報          |
| 17. 事業の概況-MB事業                |                   |

### 表紙写真:

次世代モーターリゼーションの成長を見据えた開発したEVコンセプトカー「AERO-Y」。「AERO-Y」には車全体の空気抵抗低減に貢献する「フィンタイヤ」をはじめ、航空部品開発から生まれた超軽量かつ高強度なボディ設計技術、ハマタイト(接着剤)開発で培った異種複合材接着技術など様々な部門の最新技術を採用しています。

### 見直しに関する注意事項

このアニュアルレポートに含まれている将来に関する見直しや予測は、現在入手可能な情報を基に当社の経営者が判断したものです。実際の成果や業績は、様々なリスクや不確定な要素により、記載されている内容と異なる可能性があります。

## ステークホルダーの皆様へ

2013年の事業環境は、海外では米国経済が回復し、日本国内でもアベノミクスにより企業の景況感の改善、個人消費の持ち直しが見られました。また、タイヤ業界も円安の進展、原材料価格の下落基調などで堅調に推移しました。こうした中、当社の売上高は前期比7.5%増の6,016億円、営業利益は同14.0%増の566億円、当期純利益は同7.3%増の350億円となり、2年続けて過去最高を記録しました。主力のタイヤ事業は北米や中国を中心に海外販売が回復したほか、国内市販用も好調でした。また、工業品事業では自動車用ホースや海洋商品、コンベヤベルトなどが好調に推移しました。配当金は前期比2円増配し、年間で1株当たり22円といたしました。

当社グループは現在、2006年度に策定した中期経営計画「GD100(グランドデザイン100)」に取り組んでいます。「GD100」は創業100周年に当たる2017年度に売上高

1兆円、営業利益1,000億円の達成を目指す計画で、3カ年を1フェーズとしており、現在はPhaseⅢ(2012~2014年)となります。PhaseⅢでは「強くしなやかな成長」というテーマの下、3年間合計で売上高1兆8,000億円、営業利益1,500億円という目標を掲げています。この達成にむけ、海外におけるタイヤや工業品の生産・販売力の強化を加速化しています。これまでのところ順調に推移しており、最終年度の2014年度には当初目標を上回る見込みです。

2014年度は先行き不透明な経営環境が続くとみられますが、北米、中国で今後も景気回復が進む見通しのほか、日本国内でも政府の経済政策の効果が引き続き期待されます。こうした中、当社の連結業績は売上高が前期比7.5%増の6,470億円、営業利益が同11.2%増の630億円、当期純利益が同7.1%増の375億円となる見通しです。配当は前年と同様、中間が1株当たり10円、期末が同12円で年間22円を予定しています。

横浜ゴムグループは「GD100」の目標達成に向け、様々な事業戦略や施策に取り組みながらグローバル企業として成長を続けます。ステークホルダーの皆様におかれましてはこうした当社の姿勢をご理解いただき、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年5月

代表取締役会長兼CEO (左)

南雲忠信

代表取締役社長

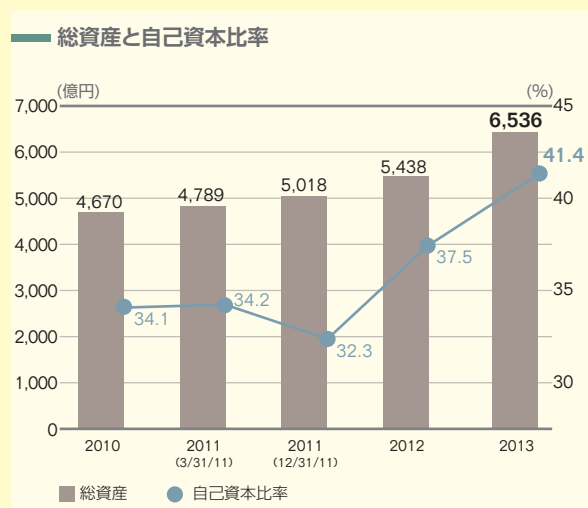
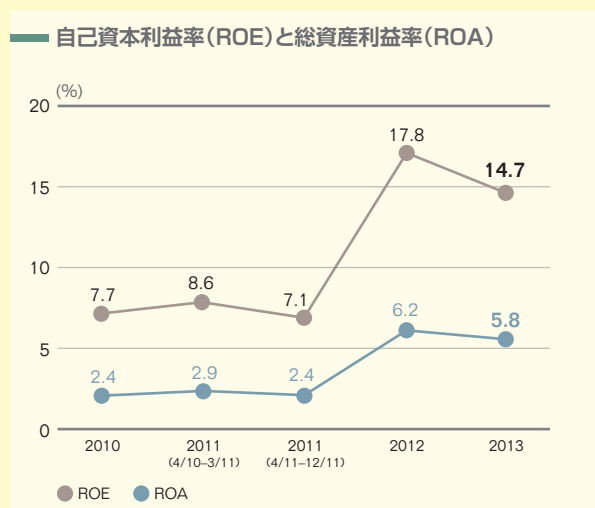
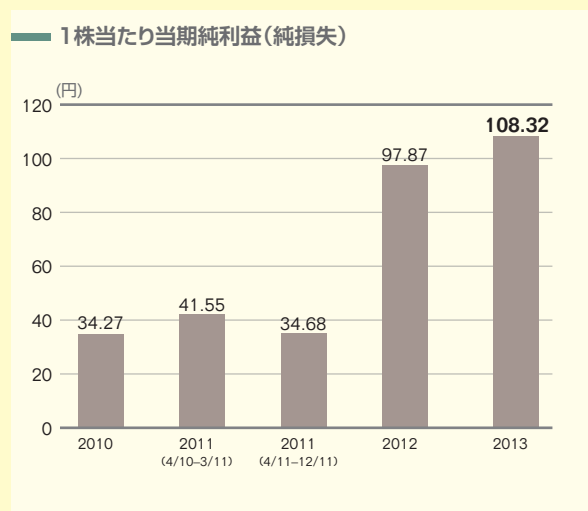
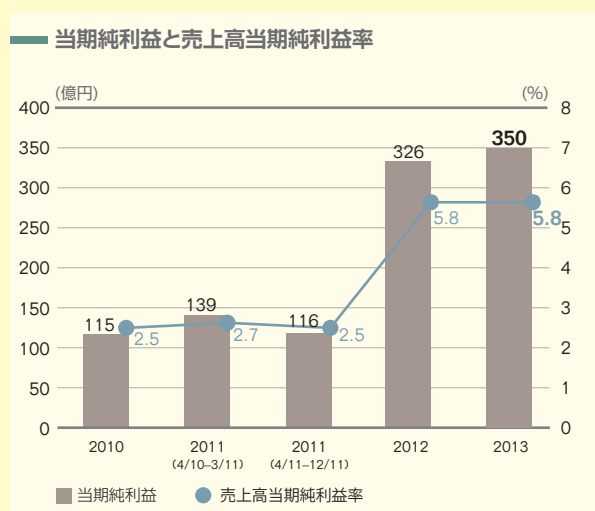
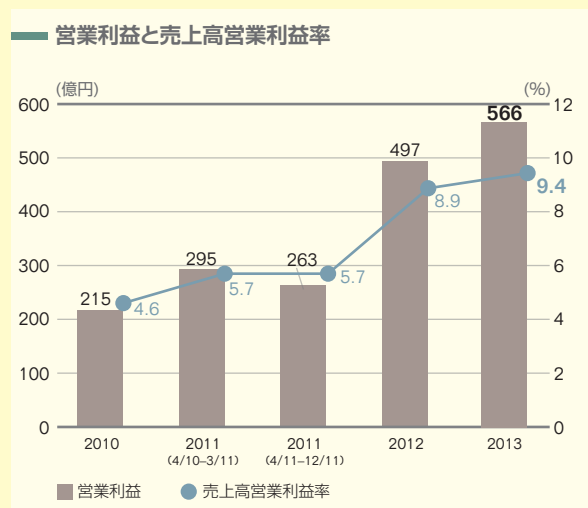
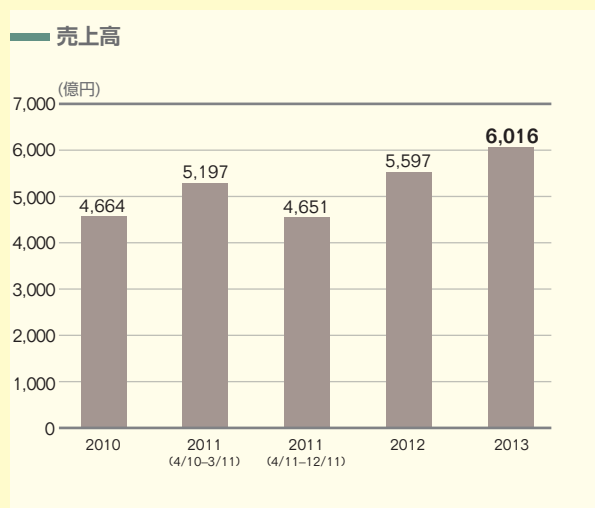
野地彦旬



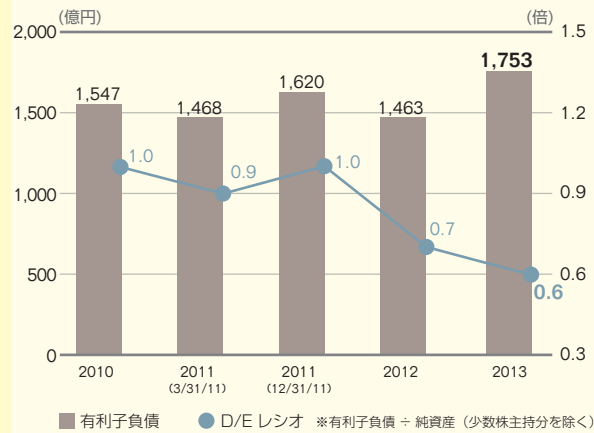
## 決算ハイライト

12月31日および3月31日に終了した会計年度

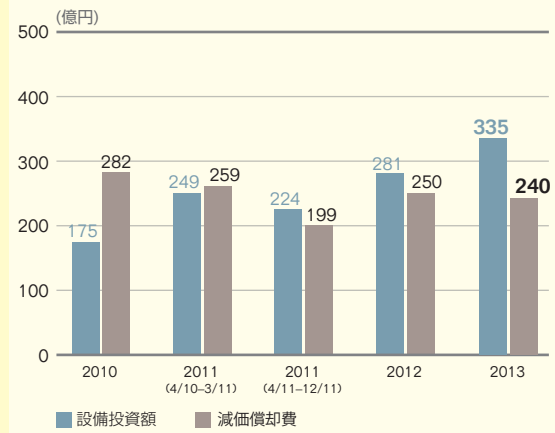
※このページの年度表記は英語版アニュアルレポートと揃えているため、他ページの年度表記とは異なります。2010は2009年度、2011(4/10-3/11)は2010年度となります。また、2011(4/11-12/11)=2011年度は決算期変更により、2011年4月1日から12月31日までの9カ月決算となっています。



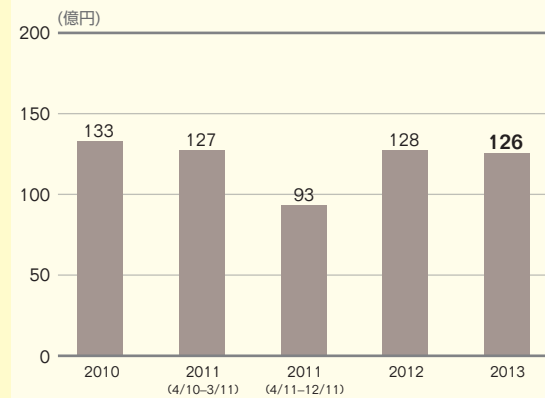
### 有利子負債とD/Eレシオ\*



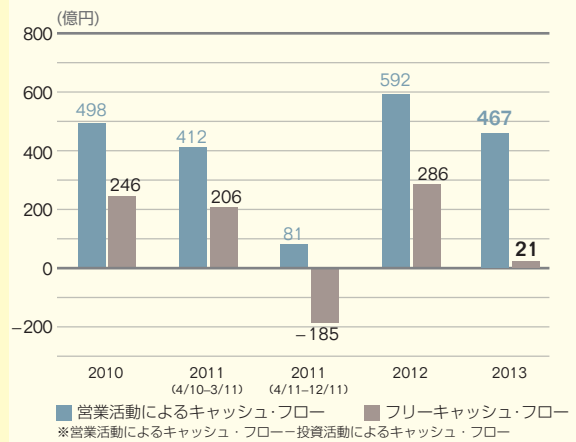
### 設備投資額と減価償却費



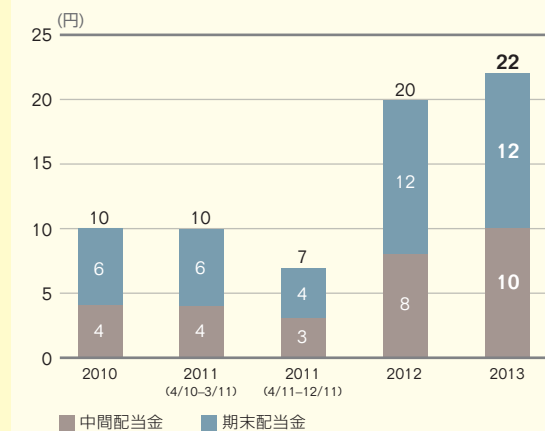
### 研究開発費



### 営業活動によるキャッシュ・フローとフリーキャッシュ・フロー\*



### 1株当たり配当金



### 従業員数

